

緩和ケア病院調査(7月実施)

1 病院調査

○調査対象病院

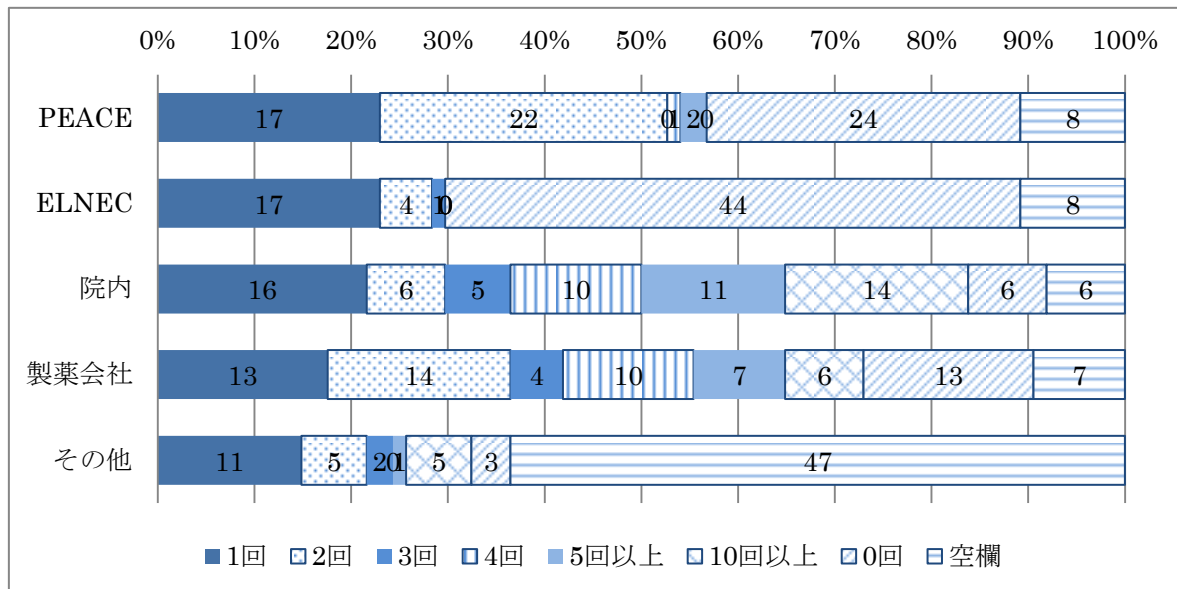
都道府県がん診療連携拠点病院、地域がん診療連携拠点病院、地域がん診療病院、東京都がん診療連携拠点病院、東京都がん診療連携協力病院、緩和ケア病棟を設置する病院

○病院数

全体	提出
74	69

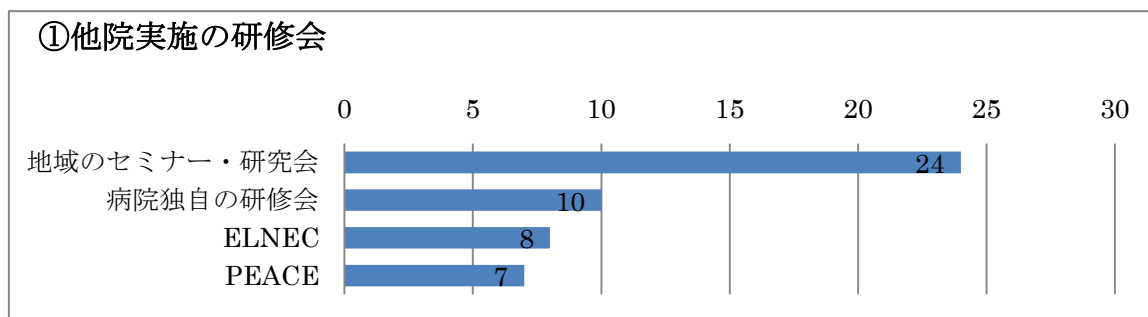
東京都がん医療等に関する病院実態調査（緩和ケア）調査票

(3) 貴院で企画・主催される緩和ケアに関する「研修会・勉強会」（症例カンファレンスを除く）の頻度を数字でご記入ください（開催していない場合は「0」をご記入ください）。その他の研修会がある場合は、名称をご記入ください。（N=74）



(4) 上記以外の他団体が企画・主催する緩和ケアに関する「研修会・勉強会」について、どのようなものがあるか、名称・内容等おわかりになる範囲でご記入ください。

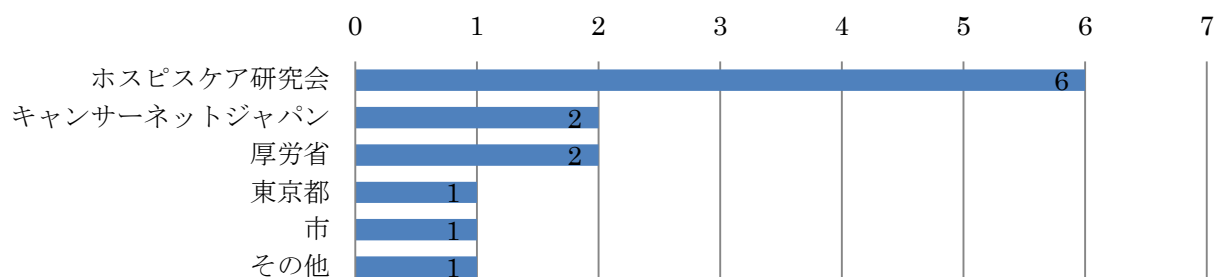
①他院で行われる研修会



②行政機関・NPO等で行われる研修会等

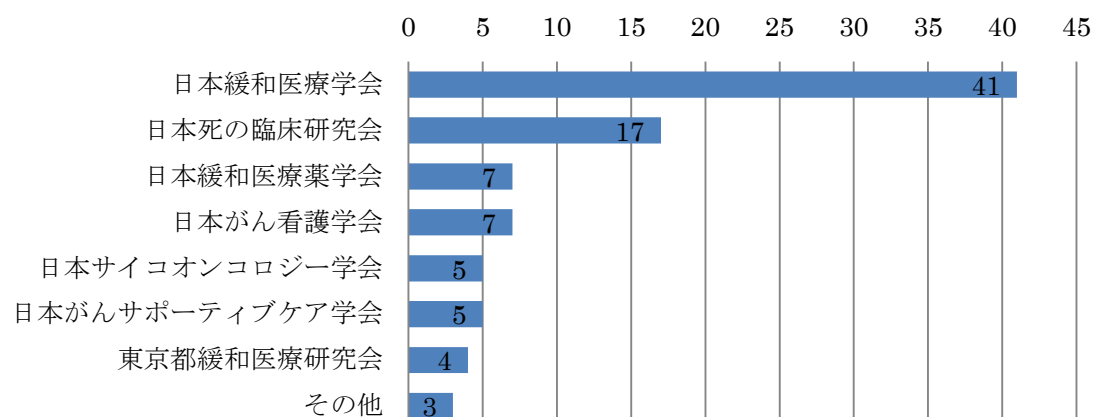
東京都がん医療等に関する病院実態調査（緩和ケア）調査票

②行政・NPO等



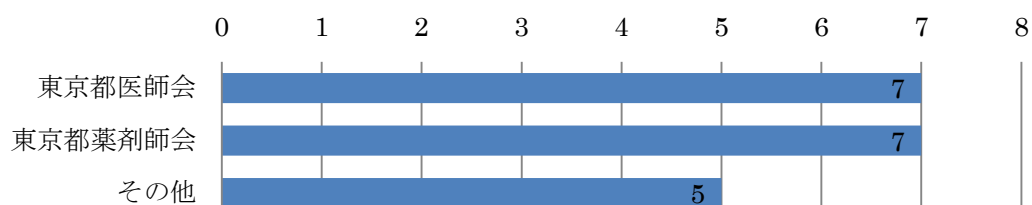
③学会（地方会含む）等で行われる研修会等

③学会等



④医師会・薬剤師会等で行われる研修会等

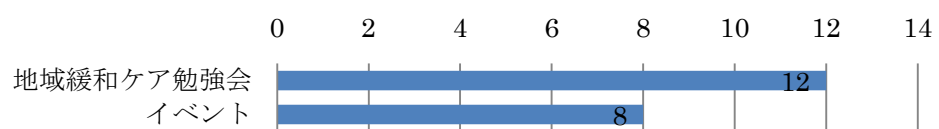
④医師会・薬剤師会等



⑤製薬会社等で行われる研修会等

東京都がん医療等に関する病院実態調査（緩和ケア）調査票

⑤製薬会社等



⑥その他

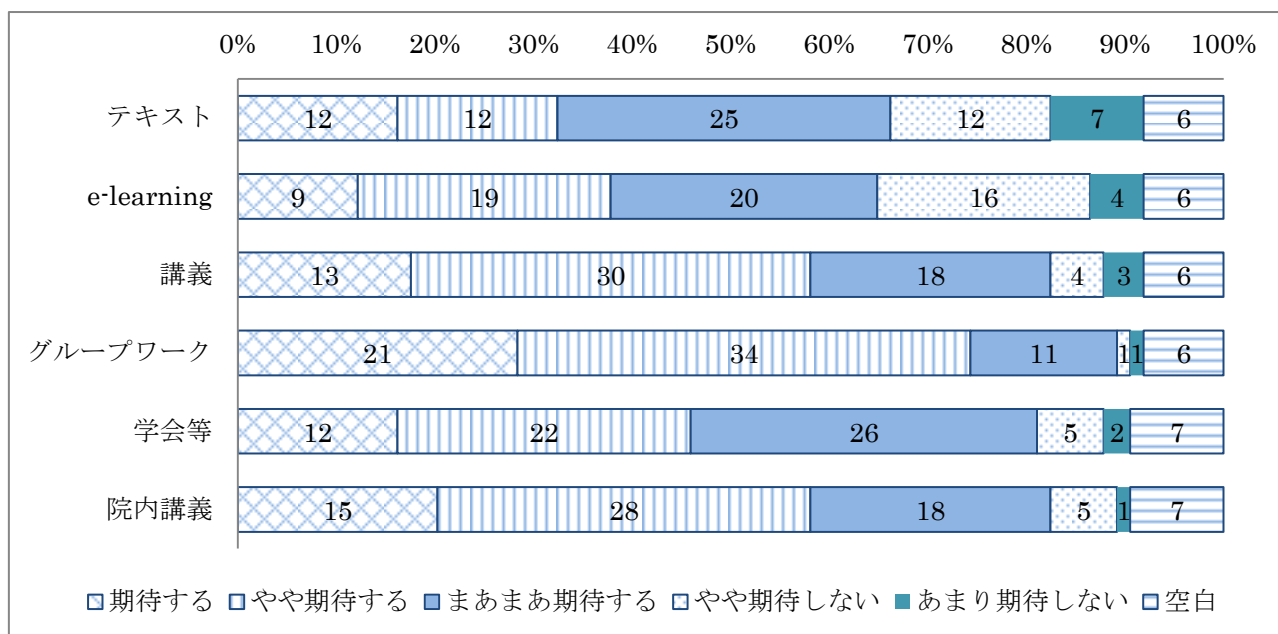
ホスピスケア研究会

東京都がん医療等に関する病院実態調査（緩和ケア）調査票

(5) どのような研修方法が効果的で望ましいと思うか、該当する数字に○を付けてください。

(N=74)

研修方法	期待する	まあまあ	あまり期待しない	理由		
テキスト配布	5	4	3	2	1	
e-learning	5	4	3	2	1	
集合研修（講義）	5	4	3	2	1	
集合研修（グループワーク）	5	4	3	2	1	
学会地方会・研究会主催の 講義講演会	5	4	3	2	1	
院内専門家による講義・講演会	5	4	3	2	1	
その他（具体的_____）	5	4	3	2	1	



【理由】

1 テキスト

- 便利、ニーズに合わせ取捨選択可能
- 繰り返し学べる
- 後で見直せるので有効
- 時間や場所の制約なく研修可能
- 身につかないことが多い
- 主体性がないと効果なし

東京都がん医療等に関する病院実態調査（緩和ケア）調査票

- 振り返りが少ない など

2 e-learning

- どこでも学べる
- 時間を気にしなくて良い
- 自己学習できる
- 講義の知識定着率は5%と言われているため
- 受講者に意欲がなければ効果は乏しい
- その場限りの知識 など

3 集合研修（講義）

- 事例等具体的な意見交換が可能であるため
- 専門家（講義者）の話が聞ける
- テキスト配布より理解力が増すため
- 受講者に意欲がなければ効果は乏しい
- 受け身になりがち
- 質にばらつきがある など

4 集合研修（グループワーク）

- 能動的な参加が必要となるため、研修内容が濃密になる
- 他施設、他職種とディスカッションすることで新たな気づきが得られる。
- ロールプレイ等行うので有効
- 多忙のため時間が取れない など

5 学会地方会・研究会主催の講義講演会

- 最新の情報を集めやすい
- 興味のあるものに参加可能
- 専門家の知見が得られる
- 座学で終わることがある
- 会場に行く機会がなかなか作れない（勤務調整） など

6 院内専門家による講義・講演会

- 開催しやすい
- 現場のニーズに即した内容になるため
- 興味のないスタッフが外部に研修に行くのは難しいため院内から始めるのが良い。

東京都がん医療等に関する病院実態調査（緩和ケア）調査票

- 実際の事例にあわせて話が聞ける
- 専門医師不在のため
- 小規模だと講師の負担が大きい。数も限りがある。
- 外部から有名講師を呼ぶ方が満足度は高い など

7 その他

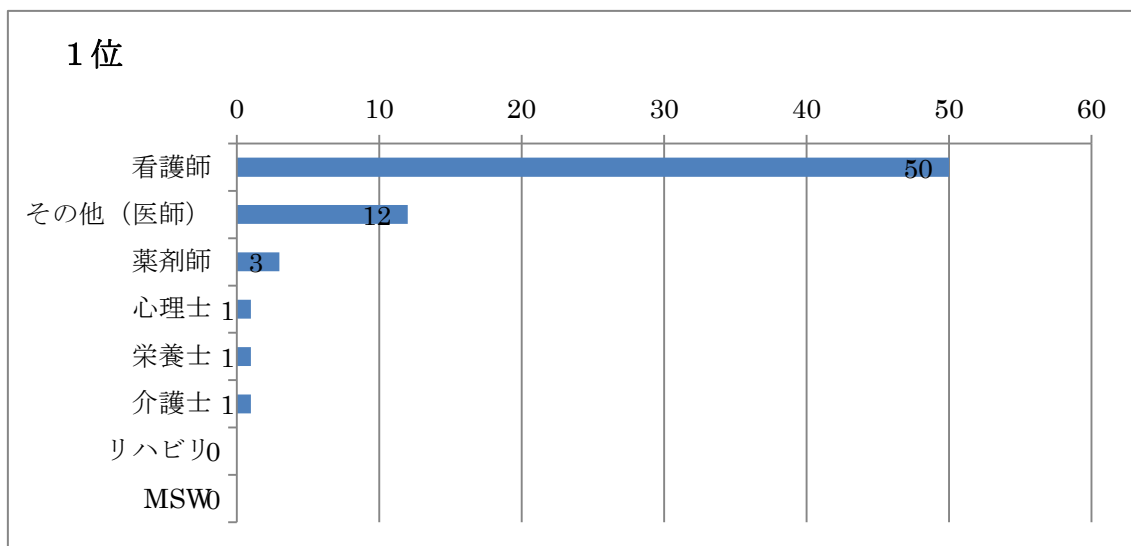
- web カンファレンス。移動しないで参加できる
- 地域訪看との多職種合同事例検討会。実践的な内容のため。
- ドラマを作成し、エピソードを伝える など

(6) どの職種向けの研修が特に重要であると思うか、以下の(ア)～(ク)から上位3つの職種を選択し、その理由をご記入ください。

(ア) 看護師 (イ) 薬剤師 (ウ) 心理士 (エ) 栄養士 (オ) リハビリ (OT、PT、ST)

(カ) MSW (キ) 介護士 (ク) その他(具体的に_____)

順位	職種	理由
1位		
2位		
3位		



東京都がん医療等に関する病院実態調査（緩和ケア）調査票

【理由】

1 看護師

- 患者・家族に接する時間が多いため
- 看護師の人数が多いため
- 新しい知識を習得し、学習する場が必要であるため など

2 その他（医師）

- 「緩和ケア」に関する正しい理解が必要なため（誤った認識がある）
- 治療で主導的立場であるため など

3 薬剤師

- 薬物療法に関する知識を院内に普及することができるため

4 心理士

- 意思決定支援等が重要になってるため

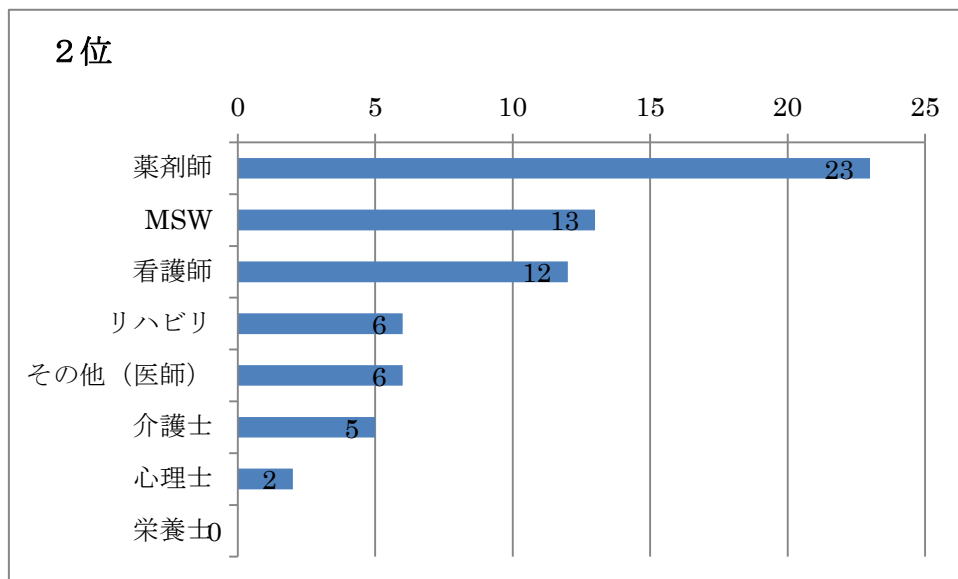
5 栄養士

- 当緩和ケアチームに栄養士が参加し関わるが多くなったから

6 介護士

- 今後、ニーズが高まるため

東京都がん医療等に関する病院実態調査（緩和ケア）調査票



【理由】

1 薬剤師

- 薬剤についての専門知識が必要であるため
- 患者側の理解を得られる説明を要するため
- 麻薬、抗精神薬等の指導管理が絶対必要だから
- 患者のみならず、医師・看護師への助言が必要だから など

2 MSW

- 退院支援担当として緩和ケア対象者に関わる頻度が増しているため
- 入院期間の短縮により退院調整が必要なケースが増えているため
- サポートに必要な人が多いため など

3 看護師

- 患者・家族に接する時間が多いため
- 苦痛に直面しても医師に提案できない（提案しても断られる）ケースがある など

4 リハビリ

- がんリハビリテーション管理加算等の算定もあり、緩和ケアの強識が必要であるため
- 関心はあるが、学ぶ機会が少ないため
- 廃用症候群の予防、患者にあったポジショニング移動動作などの指導を行ってほしいため など

東京都がん医療等に関する病院実態調査（緩和ケア）調査票

5 その他（医師）

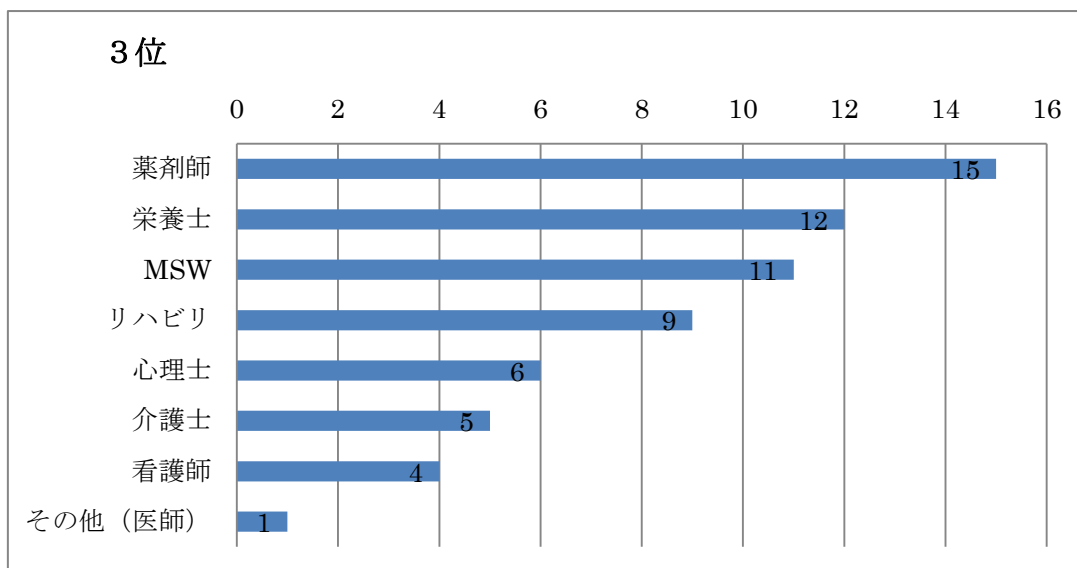
- 臨床現場において主導的な立場にあるため
- 医師の考えが強く影響するため
- 緩和ケア医師以外の知識・技術が乏しいため
- 決定権を持つのは医師なので、新しい知識を持つ必要がある など

6 介護士

- 介護士の関与がより高くなるため
- 直接患者に接するため、最前線の現場での対応の質に違いが出てくるため
- 介護士の緩和領域への進出に強い期待を持つため など

7 心理士

- 患者の心理面のケアに必須であるため
- 医学的知識が乏しいため



【理由】

1 薬剤師

- 薬剤師からの提案は、医師の処方や治療の決定に影響を与えるため
- 新規の薬剤などが増えているため
- 薬剤の進歩の速さに適宜対応するため
- 調剤薬局のレベルアップのため
- 患者への接し方を知っていれば、医師への助言もよりの確になるため
- 麻薬や緩和ケアに関わる薬の調整は重要であるため

東京都がん医療等に関する病院実態調査（緩和ケア）調査票

など

2 栄養士

- 化学療法中やターミナル期のがん患者の中には、食事に関する希望を持っている方が多く、生きる意味につながると考えるため
 - 患者のニーズが高いため
 - 進行がん患者のための栄養管理が必要であるため
 - 個々の状態に合わせた栄養摂取が必要であるため
- など

3 MSW

- がん患者の退院支援を行うため
- 外来や退院後の生活を支える上で緩和ケアの知識が必要であるため
- 他院との患者情報の交換や、家族との関わりも多く、病院の窓口となっているため
- 経済、就労支援、子どもの問題などの役割が大きいため
- 緩和ケアの知識を十分に得た上での対応が望ましい など

4 リハビリ

- がんリハビリの重要性とコミュニケーション技術について毎年学ぶ機会が必要と考えるため
- QOL 向上の効果があるため
- 緩和ケアを学ぶ機会が少ないため。
- 患者と接する時間が長いため など

5 心理士

- 意思決定支援に必要であるため
- 精神的ケアが必要なケースが多いため
- 患者の精神的な、スピリチュアルな苦痛への対応が必要であるため など

6 介護士

- 緩和ケアについて理解を深めてほしい職種のため
- 患者・家族に近い存在のため
- 介護士の看取りも増えているため など

7 看護師

- 患者・家族に接する時間が多いため
- 自施設での研修等に参加が限られる傾向が強い など

8 その他（医師）

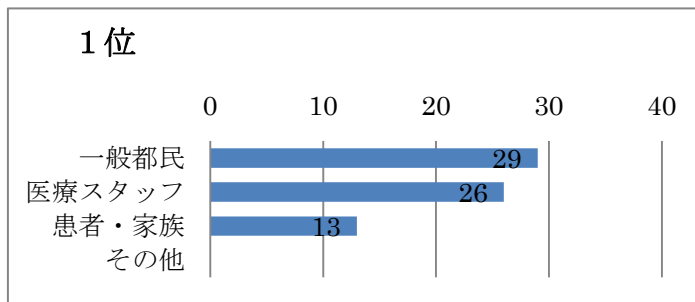
○緩和ケア対象者に関わる頻度が増しているため

2 緩和ケアの普及啓発について

（1）緩和ケアのイメージについて「がんが進行し治療ができなくなった時の最終手段である」と誤った認識をしている都民が約3割いることが分かりました【都民意識調査（平成28年度）】

緩和ケアについて、正しく理解し、適切に利用してもらうためには、誰に対する啓発が重要と思うか、（ア）～（エ）から上位2つを選択して○を付け、その理由をご記入ください。

順位	対象	理由
1位	(ア)一般都民 (イ)患者・家族 (ウ)医療スタッフ (エ)その他	
2位	(ア)一般都民 (イ)患者・家族 (ウ)医療スタッフ (エ)その他	



【理由】

1 一般都民

- 患者・家族になる前から正しい知識を持っていた方が良いため
- 認識のレベルがまだ低いと思われるため
- がんと診断された時から緩和ケアが必要であることを啓発することで緩和ケアへのイメージが変わるため など

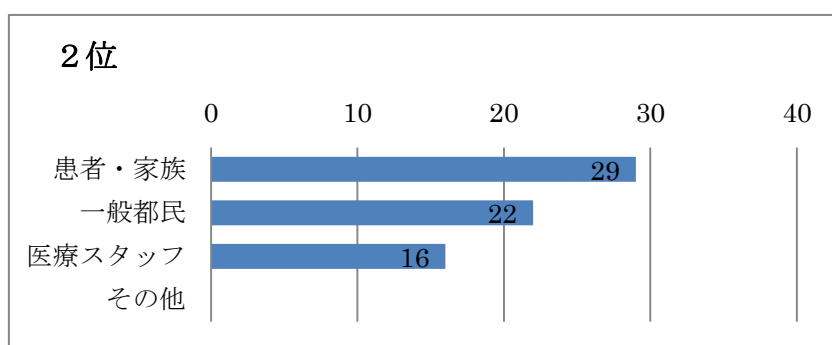
2 医療スタッフ

- 「緩和は最後の手段」と考える医療従事者がまだまだ多いため
- 医療者が正しい情報を患者・家族に伝えるべきであるため
- 知識や情報の共有が十分でないときがあるため
- 医療スタッフでも理解できない人が多いため など

東京都がん医療等に関する病院実態調査（緩和ケア）調査票

3 患者・家族

- 最終手段という誤解が根強い印象有るため
- 正しい理解がないため、適切な緩和医療の提供が困難となり、患者・家族の不利益となる可能性があるため
- 「最終手段」というイメージが根強く、入棟を快く思わない患者・家族が多くいるため
など



【理由】

1 患者・家族

- 未だに十分理解されていないのが現状があるため
- 早期から緩和ケアの概念から啓発すべきであるため
- 自分たちでしっかり理解して選択してほしいため など

2 一般都民

- 患者・家族の立場になる前から知識を持ち、考えておく必要があるため
- 正しい知識をもって選べるようにする必要があるため
- 医療スタッフには理解が浸透しつつあるため など

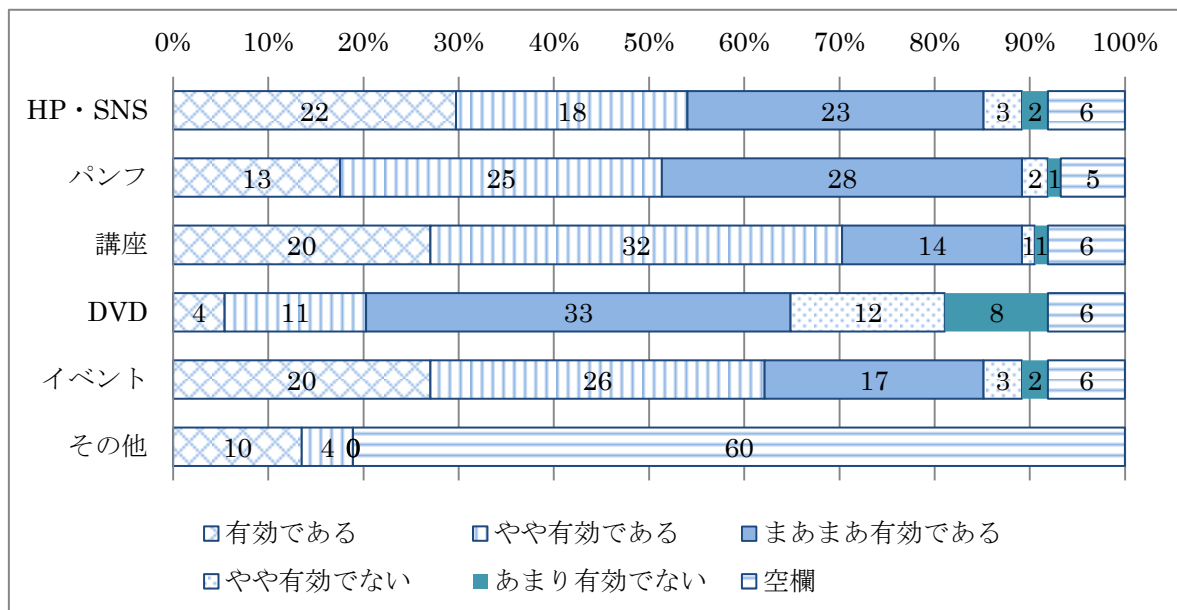
3 医療スタッフ

- 一般の医師・看護師の緩和ケアに対する知識不足を感じるため
- まだ緩和ケアに対してホスピスのイメージを持っている医療者がいるため
- 医療者を通じて、患者・家族に伝えることが効果的と考えるため など

(2) 緩和ケアの啓発のためのツールとして、どのような方法が有効だと思うか、該当

東京都がん医療等に関する病院実態調査（緩和ケア）調査票

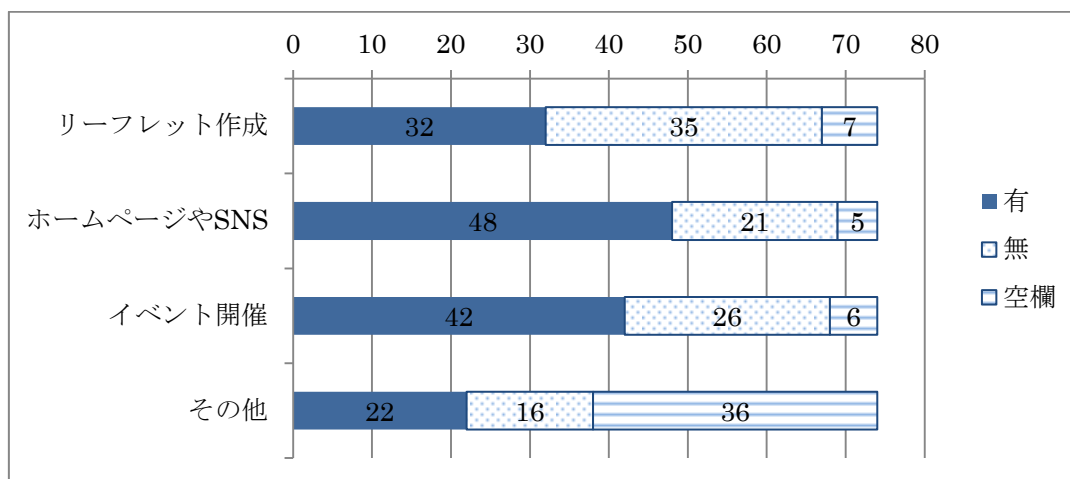
するものに○を付けてください。（N=74）



(3) 貴院の緩和ケアに関する普及啓発の取組の有無に○を付け、具体的な取組内容をご記入ください。（N=74）

取組	実施の有無	具体的取組名
リーフレット作成	有・無	※作成している場合は、1部御提出願います。
ホームページや SNS	有・無	
イベント開催	有・無	
その他	有・無	

東京都がん医療等に関する病院実態調査（緩和ケア）調査票



【具体的取組名】

1 リーフレット作成

緩和ケア病棟のリーフレット、院内緩和ケアのリーフレット など

2 ホームページやSNS

ホームページに緩和外来・緩和ケアチームの紹介、緩和病棟への入院案内 など

3 イベント開催

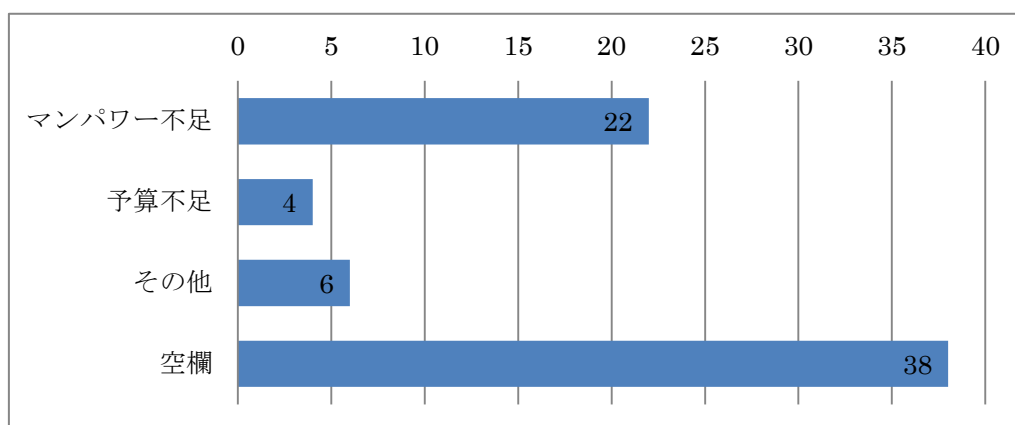
オレンジバルーン、がんサロンの開催 など

4 その他

ポスター掲示、薬剤師によるがんと薬の相談 など

(4)(3) で普及啓発を十分に行えていない場合、なぜ取組を行えていないか、理由をご記入ください。

東京都がん医療等に関する病院実態調査（緩和ケア）調査票



(5) 緩和ケアの普及啓発について、都からどのような支援があればよいか、御意見がありましたらご記入ください。

